

【担当教員】

松井 志菜子

【教員室または連絡先】

化学経営情報1号棟305室

【授業目的及び達成目標】

国家の基本法である憲法とは何か。人権の歴史を紐解くことにより、憲法が謳う個人の尊厳とは何か、人は皆、自由、平等であり幸福を追求する権利を有する意味を考える。憲法の基本理念である基本的人権、国民主権、平和主義について考察する。現代の身近な社会事象を取り上げ、立場の違いによる多様な思考を理解し、学生が自分の言葉で憲法を議論できるようにするのが授業の目的である。

【授業キーワード】

個人の尊重、基本的人権、国民主権、平和主義、国会、内閣、裁判所

【授業内容及び授業方法】

授業内容は授業項目に沿った講義を中心に行う。授業方法は毎回提示する課題について考え、次週の授業で多様な意見の存在を知ることから始まる。本を読み、他の人々の意見に耳を傾け、議論や討論を重ね、また書くことにより自分の考えを整理する。意見や主張の発表ができるよう指導する。裁判傍聴や模擬裁判、関連映画など適宜採り入れ理解を深める。

【授業項目】

- 第1回 憲法と立憲主義
- 第2回 法の支配と法治主義
- 第3回 日本国憲法の基本原理
- 第4回 国民主権と天皇制
- 第5回 平和主義
- 第6回 基本的人権とその限界
- 第7回 幸福追求権、法の下での平等
- 第8回 精神的自由(思想、良心の自由、信教の自由、集会・結社の自由、学問の自由)
- 第9回 精神的自由(表現の自由、知る権利、プライバシー権、通信の秘密)
- 第10回 経済的自由(職業選択の自由、居住・移転の自由、財産権)
- 第11回 社会権(生存権、教育を受ける権利、労働基本権)、人身の自由、受益権
- 第12回 権力分立の原理、参政権、国会
- 第13回 内閣
- 第14回 裁判所
- 第15回 財政、地方自治、憲法改正

【教科書】

なし。

【参考書】

適宜、紹介する。

【成績の評価方法及び評価項目】

評価方法

課題レポート(日本語、外国語提出可能)(50%)

授業態度、議論や討論への参加状況、積極性、問題意識、課題への取組姿勢などを総合評価(50%)。

評価項目

レポート課題のどの点が憲法上、問題となっているのか意識し、自分の考えを持つことができたか。課題に関連する文献調査、資料調査を行い、要点、問題点をまとめられたか。自分の考え方や結論、価値判断をわかりやすく表現できたか。議論、討論に積極的に参加し、論理的な説明ができたか。他の意見や考え方に耳を傾け理解し、自分の考え方を改めて客観的、批判的に再検討できたか。

【留意事項】

日本国憲法の条文を持参すること。六法の種類、調達方法は初めの授業で説明する。

【担当教員】

植野 真臣・小西

【教員室または連絡先】

化学経営情報1号棟309室(植野)

【授業目的及び達成目標】

現代人の生活にとって、情報資源の活用は必須の条件となっている。このため、新聞・雑誌・図書等の刊行物に関わる情報を中心に、必要とされる情報の効率的な選択に必要な検索理論、検索システム、検索戦略について、基礎知識と技術を学ぶ。

【授業キーワード】

学術情報、レポート作成技術、プレゼンテーション技術、インターネット、パソコン

【授業内容及び授業方法】

複数の教官及びこの分野の専門家の協力により、講義及び実際の情報機器の操作を併用して進める。

【授業項目】

- 1.教育・学術・文化と情報(1回)
- 2.パソコンの操作(1回)
- 3.インターネット情報検索(1回)
- 4.図書館情報検索(5回:情報収集・選択方法、図書館の 資料、書誌と所蔵と分類、データベースの基礎、まとめ)
- 5.学術情報と図書館(1回)
- 6.レポート作成技術(2回)
- 11.プレゼンテーション技術(3回)
- 12.総括まとめ・ディスカッション(1回)

【教科書】

特に使用しない。

【成績の評価方法と評価項目】

- 小テスト(40%)
- レポート(40%)
- 学習態度(20%)

【留意事項】

1学期、2学期とも、人数は30名。同一単位、同一内容の授業とする。希望者は、いずれかの学期において履修してよい。

【担当教員】

李志東

【教員室または連絡先】

化学経営情報1号棟306室

【授業目的及び達成目標】

限られた資源のもとで、人々の満足度を高めるために、家計、企業、政府といった経済主体がどのように行動すべきか、その結果最適な資源配分が達成されるかどうかなど、ミクロ経済学の基礎に関する理解を目的とする。応用課題として、公害問題や地球温暖化問題など環境問題に関する経済学的意味付けと対策検討もあわせて行う。最終的に、経済、産業などの業界誌、新聞の読解能力を身に付け、独自の情勢判断ができることを目標とする。

【授業キーワード】

経済主体、合理的行動、市場メカニズム、消費者行動と効用最大化、企業行動と利潤最大化、市場均衡と最適、市場の失敗と計画の失敗

【授業内容及び授業方法】

私たちが日々見聞きしている現実の経済問題と関連付けつつ、基本的考え方と諸概念に重点を置き、ミクロ経済学の基礎知識を習得する。講義に当たって、復習と内容理解に関する質疑応答を随時行う。

【授業項目】

1. ミクロ経済学の概要(1回)
2. 消費者行動と需要関数(4回)
3. 生産者行動と供給関数(4回)
4. 市場均衡の理論(3回)
5. 「市場の失敗」と「計画の失敗」(1～2回)

【教科書】

「入門 価格理論第2版」倉沢資成、日本評論社

【参考書】

講義時に提示する。

【成績の評価方法と評価項目】

質疑応答(30%)と持ち込み可の筆記試験(70%)を総合して評価する。

【留意事項】

日常的に、経済関連の出来事に関心を持ってほしい。

【担当教員】

渡辺 登

【教員室または連絡先】

非常勤講師

【授業目的及び達成目標】

社会学の基本的な考え方を修得するとともに、これに基づいて現実に生起する社会的諸事象を客観的に把握できるようにすることを目的とする。

【授業キーワード】

自明性の暴露

【授業内容及び授業方法】

社会学の基本的な見方を日常的な事例を考える中で、修得していく。
なお、理解度を測るために数回毎にテストを行う。

【授業項目】

- 1.社会学と隣接諸科学(1回)
- 2.社会学的考え方とは何かー「常識」の相対化
 - (1)潜在的機能と顕在的機能(2-4回)
 - (2)ラベリング理論(5・6回)
 - (3)ジェンダー(8・9回)
- 3.社会学的説明と記述ー因果関係(10・11回)
- 4.社会学と社会調査(12・13回)
 - (1)「調査」の嘘を見破る方法
 - (2)実際の調査はどのように行うのか
- 5.現代社会を読み解く(14・15回)

【教科書】

教科書は指定しない。

【参考書】

参考書については講義において指示する。

【成績の評価方法と評価項目】

学習態度10%、小テスト20%、試験70%の割合で成績を評価する。

【担当教員】

中村 和男

【教員室または連絡先】

化学経営情報1号棟405室(E-mail: nakamura@kjs.nagaokaut)

【授業目的及び達成目標】

人類の生存や諸活動は、実世界の複雑に絡み合うさまざまな要素との関係の中で成り立っている。科学技術の発展と人口の急速な増大は、人類の生存や活動においてそうした関係を意識的にとらえていかなければ問題の本質をおさえられず、解決していくことも困難な状況をもたらしている。本講義では、対象をシステムとして認識し、部分と全体及びその相互関連性を分析し、これを合成するためのシステム概念、システム理論、システム技法の諸相を概説しシステムチックな思考法を培うことを目的とする。

【授業キーワード】

一般システム、要素と全体、相互関連、複雑性、システム工学、システム分析、システム合成、最適化、意思決定

【授業内容及び授業方法】

システムの一般的定義及びその一般的性質の理解から始めて、対象をシステムとして認識する考え方及びそれをシステムとして記述、分析、合成する方法を具体例を用いながら習得してもらおう。授業の進め方としては、適宜プリントを配布し解説を加えるとともに、例題や演習問題を通して考え方や手法を体得してもらえるように努める。

【授業項目】

1. システムとは(1回)
システムという用語の使い方、モノのとらえ方、その具体的例示
2. システムの一般理論(2回)
一般システム論、システムの分類と具体例、システム概念の数理的考察
3. システム科学とシステム工学(1回)
システムの基礎論と他分野への適用、システム工学における諸相
4. システムの表現(4回)
目的の構造化と効用関数、対象のモデル化(グラフ、微分方程式、オートマトン)
5. システム合成と分析(4回)
システム合成の方法(実現可能性、発想支援)、システム分析の方法(構造特性、動的安定性、シミュレーション)
6. 適正なシステムの選択(1回)
目的関数と制約条件、数理計画手法、その他の柔軟な手法
7. 新たなシステム思考(1回)
学習、自己組織、自律分散、知的システム

【教科書】

なし。ただし、プリントを配布する。

【参考書】

フォン・ベルタランフィ著「一般システム理論」、H.A.サイモン著「新版 システム科学」(パーソナルメディア)、渡辺茂・須賀雅夫著「新版 システム工学とは何か」(日本放送出版協会)、飯尾要著「情報・システム論入門」(日本評論社)

【成績の評価方法と評価項目】

1. レポート(演習問題を含む) 30%
2. 学期末筆記試験(配布資料の持込可) 60%
3. 学習態度(出席状況や聴講・質疑の態度) 10%

【留意事項】

この講義は総合科目2類Bの「システム工学概論」につながる科目であり、事前に履修することが望ましい

【担当教員】

中村 和男

【教員室または連絡先】

化学経営情報1号棟405室(E-mail: nakamura@kjs.nagaokaut.ac.jp)

【授業目的及び達成目標】

人類の生存や諸活動は、実世界の複雑に絡み合うさまざまな要素との関係の中で成り立っている。科学技術の発展と人口の急速な増大は、人類の生存や活動においてそうした関係を意識的にとらえていかなければ問題の本質をおさえられず、解決していくことも困難な状況をもたらしている。本講義では、対象をシステムとして認識し、部分と全体及びその相互関連性を分析し、これを合成するためのシステム概念、システム理論、システム技法の諸相を概説しシステムチックな思考法を培うことを目的とする。

【授業キーワード】

一般システム、要素と全体、相互関連、複雑性、システム工学、システム分析、システム合成、最適化、意思決定

【授業内容及び授業方法】

システムの一般的定義及びその一般的性質の理解から始めて、対象をシステムとして認識する考え方及びそれをシステムとして記述、分析、合成する方法を具体例を用いながら習得してもらう。授業の進め方としては、適宜解説を加えるとともに、例題や演習問題を通して考え方や手法を体得してもらるように努める

【授業項目】

1. システムとは(1回)
システムという用語の使い方、モノのとらえ方、その具体的例示
2. システムの一般理論(2回)
一般システム論、システムの分類と具体例、システム概念の数理的考察
3. システム科学とシステム工学(1回)
システムの基礎論と他分野への適用、システム工学における諸相
4. システムの表現(4回)
目的の構造化と効用関数、対象のモデル化(グラフ、微分方程式、オートマトン)
5. システム合成と分析(4回)
システム合成の方法(実現可能性、発想支援)、システム分析の方法(構造特性、動的安定性、シミュレーション)
6. 適正なシステムの選択(1回)
目的関数と制約条件、数理計画手法、その他の柔軟な手法
7. 新たなシステム思考(1回)
学習、自己組織、自律分散、知的システム

【教科書】

なし。ただし、プリントを配布する。

【参考書】

フォン・ベルタランフィ著「一般システム理論」、H.A.サイモン著「新版 システム科学」(パーソナルメディア)、渡辺茂・須賀雅夫著「新版 システム工学とは何か」(日本放送出版協会)、飯尾要著「情報・システム論入門」(日本評論社)

【成績の評価方法と評価項目】

1. レポート(演習問題を含む) 30%
2. 学期末筆記試験(配布資料の持込可) 60%
3. 授業態度(受講状況や質疑の態度) 10%

【留意事項】

※本科目は、eラーニング科目として、科目等履修生、及び聴講生もしくは単位互換協定にかかる特別聴講学生に対して開講されたものであり、本学に通学しなくても遠隔地等の学外から履修できる遠隔授業科目である。よって、これ以外の本学学生は履修できない。

この講義は総合科目/2類Bの「システム工学概論」につながる科目であり、事前に履修することが望ましい。